

Title	現代チリにおけるある先住民のシャーマン召命（1）： オスカル・レピラオ・グアハルドの証言
Author(s)	千葉, 泉
Citation	大阪外国語大学論集. 25 p.1-p.26
Issue Date	2001-10-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79856
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

『現代チリにおけるある先住民のシャーマン召命（1） ——オスカル・レピラオ・グアハルドの証言——』

千 葉 泉

“Un ‘machiluwün’ en Chile contemporáneo (1) — testimonio de don Óscar Lepilao Guajardo —”

CHIBA Izumi

1. 序

本稿は、チリ南部を本拠とする先住民マプーチェのある女性が、一昨年（2000年）の6月にマチ（シャーマン）に召命された次第に関する証言の記録である。

先住民のシャーマンというと、ラテンアメリカにおける「経済成長の優等生」チリでは時代遅れになりつつある存在のようなイメージを受けるかも知れない。だが、近年マチが果たす役割はむしろ多角化する傾向にある。

1992年の国勢調査によると、マプーチェは15才以上の総人口の約10%を占めるチリ最大の先住民集団である。¹近年、先住民復権の気運が隆盛しつつあるこの国で、マチは復権運動の軸をなすマプーチェ民族の伝統を最も強烈に体現するパーソナリティとして、政治・社会的な影響力を高めつつある。

また、シャーマン本来の機能の一つである疾病治療の側面でもマチたちは健在で、同胞マプーチェの患者はもとより、邪術や悪霊などに起因する疾病の治療を受けるため、マチのもとを訪れるヨーロッパ系チリ住民（ウィンカ）の患者も少なくない。²この事実は、ウィンカ住民の間にも邪術をめぐる習慣が今日でも広く根付いていること、それゆえにこの種の疾病治療に秀でたマチが職能を発揮していることを示している。

本稿は、このように、近年自らの社会的機能をむしろ多様化しつつあるとすらいえるマチの誕生の個別事例に関する口頭資料である。

この証言を筆者に語ってくれたのは、第9地域ラウタロ区のブランコ・ラピン共同体に住む40歳代前半のマプーチェ男性、オスカル・レピラオ・グアハルド氏である。

今は亡きオスカルの母は、生前この共同体のマチとして、長年にわたって多くの患者の治療に当たった人物である。そしてオスカルは、この母が執り行う治療儀礼において彼女に憑依する神格と対話する重要な役割である「マチ通訳 ngüchalmachife」を務めていた。また、同共同体に居住するオスカルの姑（妻の母親）も今から9年前にマチに召命されたのだが、彼

は現在この姑マチの「通訳」も務めている。

そして、本証言に登場するマプーチェ女性フアナ・ミジャレン・グアハルドはオスカルの姪にあたり、この証言が語られる一ヶ月前にマチに「召命」されたばかりであった。オスカルはフアナの「召命」の場面に立ち会ったのみならず、彼女のマチ奉職を実現するための準備に奔走した中心人物でもある。

このように、マチを取り巻く神秘的な世界について長い経験と深い知識を備えたオスカルの証言は、近親者にあたるこのマチの召命に関する生々しい情報に富んでいる。

2. 本証言の意義

以下、オスカルの証言の意義をいくつか指摘しておこう。

第一に、彼の証言の最も興味深い点は、自分の姪にあたる女性の「マチ召命」の次第が、近親者の視点から赤裸々かつ具体的な言葉で語られていることにある。

マプーチェのシャーマニズムに関するこれまでの研究では、ある人物がマチとして成立する要因に関して、基本的に二種類の説明が呈示されてきた。

まず、人的要因による説明がある。これは、ある人物が自分の意思でマチになろう決心したり、ある現役のマチがそう望んで、近親者またはある他人をマチに仕立てる、というものである。

この説明は、マチとして職能を発揮するのに不可欠な様々な知識の修得の方法についても人為的な要因を強調する。すなわち、現役のマチによる「長期にわたる高額の出費を伴う指導」を受けて、言い換えれば「厳しい修行」を経て初めて、ある人物がマチとしての能力・知識を得ることが可能になるというのである。³

それに対し、もう一つの立場は、超自然的な要因をマチ生成の根本原理とするものである。こちらは、特定の神格または霊によって「召命」されることこそマチ誕生の主要因であって、本人や周囲の現役マチの意思などの人為的な要因はその本質ではないとする考えである。⁴

本稿で扱うフアナも含め、これまでに筆者が直接話を聞くことができた複数の地区のマチたちのケースに限って言えば、彼女たちはいずれもこの第二の説明に沿って自らのマチ生成を説明している。また、マチとしての知識の修得に関しても、他のマチの「指導」を受けて、言い換えれば「修行」によってマチになる（と説明するような）人物を、「成り上がった kisuwitrawi」のマチと表現し、その正統性を否定するマチもいる。

だからといって、直ちに第1の説の真正性を否定しようというのではない。ただこの問題に関して、例えば時代的な変化や地域ごとの差異等の可能性も含め、具体的な情報に依拠したより実証的な研究・報告態度の肝要性を確認しておくにとどめよう。

一方、「召命」原理を呈示する研究者たちも、「神格（霊）による召命」の本質を特定の概念で一般化して説明する傾向が強い。「神（霊）による選抜」⁶、「先祖マチの霊の転生」⁷、「夢でのお告げ」⁸、「天の啓示」⁹等の表現がそれである。

だが、筆者がこれまでに調べ得たものを含めて、個別的なケースを一つ一つ丁寧に見てい

くと、「神格（霊）による召命」の根拠としてマチたちが具体的に挙げている事項は決して一様ではなく、かなりの個人差が観察される。

今世紀初頭にマプーチェ語で記述された、海岸部ブディ地区のあるマチの親族の証言には、ある時に意識不明となったのち、近隣の現役マチの治療を受けている最中に霊的存在の憑依を受け、マチとしての誕生を宣言する娘の様子が説明されている。¹⁰

また、1937年に行った調査を行ったハウセの研究には、貝の採集中にマチになることを命じる天啓を聞いた後意識を失い、のちにマチになった娘のケースが掲載されている。ハウセはこの例に依拠し、「天の啓示」が「マチ召命」の根拠である旨を説明している。¹¹

一方、1957年に発表されたヒルガーの研究では、「天界への飛翔」など「夢」での体験を経て召命されたという二名のマチのケースが記述され、「夢を通じた神格の命令」こそ召命型マチ誕生の動機である旨の説明がなされている。¹²

次に、筆者が直接話を聞くことができた、現在現役で働いている複数の地区のマチのケースを具体的に見てみよう。

まず、ルマコ区に居住するあるマチは、複数の幻影霊（ペリモントウン）に遭遇したことを自らのマチ召命の主要な根拠である旨説明している。¹³

一方、トライゲン区に住むあるベテランの女性マチは、夢で天界に招聘されて（天界への飛翔）、直接（キリスト教の）神にマチに任命されたことを自己のマチ召命の根拠とし、幻影との遭遇を召命の根拠とするマチの真正性に疑いの目を向けている。¹⁴

そして、本稿で扱うマチの召命の次第は、以上挙げたいずれのパターンとも異なっている。すなわちこの女性は、覚醒時、つまり正常の精神状態にある時に突然ある霊的存在によって直接憑依され、そのままマチになっているからである。また彼女は、一部のマチが召命の根拠として挙げる幻影体験も否定している。その意味で、召命が極めて直接的かつ明示的な形で行われたケースといえる。¹⁵

このように、一応超自然的要因を重視する立場に限ったとしても、「召命」の次第は、多様な状況を呈しているといえる。その意味で、一人のマチの召命に関する具体性に富んだ情報を含み、マチの実践に通じた人物が、しかも原マプーチェ語で行っている証言は、易に一般化して論じられる傾向の強い「マチ召命」の問題に関し、一つの明示的な資料を提供するという意義を備えているであろう。

第二に、マチ職の継承やマチの系譜といった問題についても、オスカルの証言は極めて具体的な情報を提供している。

「召命」の立場に立つマプーチェの研究者アロンケオは、かつて祖先に憑いていた「マチの霊」が、後世代の血縁者に再び具現することによってマチ職が継続していくと説明している。¹⁶ だが、そうした「マチ霊の転生」が実際にどのような形で実現するのかについて、アロンケオは具体的な説明を行っていない。

それに対し、本稿の事例では、近親者間における同一マチ霊の継承の子細が、憑依された女性本人が行った発言の内容の中に具体的に示されている。フアナの場合、彼女に憑いた霊的存在は、今は亡きオスカルの母親の生前に、彼女に憑いていたものであった。しかもこの

霊は、彼女の存命中に、20年後にこの娘に憑依することを予言していた。つまり、血縁者同士における同一マチ霊の継承の次第が極めて具体的に語られ、しかも周囲の人々がそのことをすでに前マチの存命中に周知していたというのである。

換言すれば、奇妙に聞こえるかも知れないが、オスカルは新しく召命された若い女性マチの血縁者であるだけでなく、この女性に憑いた霊とも母の代から、つまり一代前から馴染みの仲であったことになる。このように、この「二代のマチ」の間での「霊の継承」の問題に関しても、双方の血縁者であるオスカルの説明は具体性に富んでいる。

第三に、オスカルの証言において、マチになることの社会民族的な意味が、ファナの劇的な人格変化に関する赤裸々な描写を通じて明確に示唆されている点も興味深い。この事実は同時に、彼女に憑依した神格（霊）の「混交的」な性格を雄弁に物語っている。

今日のマチたちはカトリシズムの影響¹⁷を大きく受け、自らを任命する究極的な存在が「キリスト教の神」であると認識する者が多い。¹⁸オスカルも、抽象的な思考のレベルでは、ファナをマチに仕立てた究極的な存在は「（キリスト教の）神」であり、「神」のお陰でラウタロ共同体にマチが誕生した旨を説明している。また、ファナに憑いた具体的な神格（霊）がそれまで存在したのも「神」のおわす「天界」であったという。

だがその一方で、ファナに憑いた具体的な霊的存在は、オスカルの説明による限り極めて強烈に自己のマプーチェ民族性を主張している。

まず、その霊の名称はマプーチェ語で「ウィリトゥライ」という。筆者が以前証言を記述したルマコ区のある女性マチに憑く三体の霊的存在のうち一つも、同一名称をしており、このマチの場合は「稲光の幻影霊」であった。¹⁹これは直ちに、キリスト教の影響を受ける以前からマプーチェが信仰していた存在「ピジャン」²⁰を連想させる。

だが、この霊的存在のマプーチェ民族的特徴は、ファナが憑依直後から見せた人格変化の諸相により直接的かつ明確に見て取ることができる。

ファナはヨーロッパ式の衣服（ズボン、シャツ等）を身につけ、カセット・テープをかけてダンス音楽を踊るなど、通常の若いチリ人女性と変わらない生活を送っていた。

だが霊的存在に憑依されて以来、その命令でズボンを脱ぎ捨て、伝統的なマプーチェの装束（ウクーリャ、チャマル）を着るようになった。それまでのようにスペイン語を話すこともやめ、マプーチェ語だけを話すようになった。また、むやみにダンスを踊ったりテレビを見たりすることも禁じられた。要するに、ファナはこの霊的存在から「マプーチェの伝統的習慣」に回帰することを義務付けられているのである。

以上見たように、姪に憑いた具体的な霊的存在に関するオスカルの説明からは、強烈な「マプーチェ民族主義」的特徴が浮き彫りとなっている。だが、この霊的存在を送り込み、マチの誕生を実現させた「究極的存在」は、キリスト教の神と同一の「普遍的神格」である、といった認識をオスカルは抱いているように感じられる。

またこの点にも関連するが、この霊がファナに憑依した二度の機会（13歳の時と33歳の時）のいずれもが聖ファンの祝日であったという指摘も示唆深い。

聖ファンの祝日6月24日は公式にはカトリックの祝日である。キリスト教の普及率が100%

に近い現代のマプーチェたちの間で、この日がカトリックの祝日であることを正面から否定する者はほとんどいない。²¹

だが、この日は南半球に位置するチリにとっては冬至でもあり、キリスト教の布教以前のマプーチェたちにとっては「新年」を意味していた。そして、現代のマプーチェたちもこれが民族の伝統的祝日であるという意識も失ってはいない。

その意味で、両方の伝統を受け継いだ混血的祝日²²ともいえる「聖フアンの日」にフアナがマチに召命されたのも偶然ではないように思えてくる。

そして最後に、フアナがマチ職を全うするのに必要な伝統的民具の調達次第に関するオスカルの説明は、チリにおける外国人移民史の一面、および現代チリにおける先住民文化を取り巻く一つの新しい状況を反映している意味で興味深い。なぜなら、先住民のシャーマンであるマチが自らの職を全うするのに不可欠な品々ともいえる楽器や装束の入手に、ヨーロッパ移民系のラウタロ区長が役を買っているからである。

これまで筆者は複数の地域のベテラン・マチと懇意になり、彼女たち本人やその知り合いのマチたちの奉職の次第に関する話を耳にしたが、行政当局者、しかも白人系の人物がこの件にこのような積極的な形で関与したというケースは聞いたことがなかった。また、これまで読んだ文献でそうした事例を見たこともなかった。そもそも、地域の公的権力者が先住民シャーマンの誕生に協力するなどということは、少し前までは考えられなかった事である。こうした区長の行動をどのように理解すればよいだろうか。

1990年の民政移管以降、公的な政治のレベルでも、1993年の先住民法制定等に見られるように、(少なくとも建前では)先住民の一定の権利を擁護すべきであるという風潮が高まった。²³マプーチェ人口の多いラウタロ区の区長ともなれば、こうした国家レベルでの先住民政策に追随した行動を取ることも自然に思えるかも知れない。²⁴

ただ、筆者はレナート・ハウリ区長本人に会う機会があったので、直接この点について聞いてみた。氏の話からは、こうした行為の背景には、公的政策レベルでの一般的傾向に加えて、ハウリ氏が辿った人生や育った環境など、個人的な事情も大きく影響していることが伺えた。

ハウリ氏の祖父は19世紀末にチリに移民したスイス人の一世である。²⁵三世のハウリ氏は、ラウタロ区トレス・アローヨの地にあった自宅でマプーチェの産婆のお陰で生を受け、マプーチェの乳母に育てられた。そしてレナート少年は、祖父が所有していた製粉所に集まるマプーチェの農民たちや煉瓦造りに従事する父親の仕事仲間であったマプーチェの職人たちと交流しながら成長した。こうして、普段から彼らが話題にする伝統的なマプーチェの宗教世界にも親しみを感じてきたと氏は語る。また、オスカルの証言にも登場するアグア・フリヤ共同体の高齢女性マチとも名付け親同士の関係にあるという。

このように、公的レベルでの先住民政策の潮流とハウリ氏の個人的な事情とが重なり、区長に就任した際、マプーチェ伝統文化の保持のために一肌脱ぎたいと考えたようだ。そして、先にマチに召命されたオスカルの姑の「ゲイクレウェン ngeikurewen (マチ能力を更新するための儀礼)」の際に経済的援助を行い、それ以来オスカルとも懇意にしてきた。こうして、今

回もオスカルからフアナのマチ召命に関する報を受けた際も、一つ返事で装束や楽器を調達するための金銭援助を引き受けたのだという。²⁶

このようにフアナの事例には、間接的ながら、先住民との交流を通じてヨーロッパ移民の子孫たちが被った文化変容等の要因も関係している。それと同時に、先住民の復権が少なくとも法的に公認された現代において、「先住民文化の保持」における公的權威の関与という新しい状況を示唆するケースであるともいえる。

以上見たように、オスカルの証言は現代における「マチ生成」の諸相に関する具体的情報を数多く富んでいる。特に、二代にわたるマチ召命の個別事例に関する彼の説明は貴重である。したがって、現代のマチに関する一つの具体的経験を書き記しておくため、そしてしばしば安易に一般化して論じられる諸々の論点を相対化するのに役立つ一つの資料を提供するためにも、本証言を記述しておくことは有意義であろう。

ところで、近代化が進む現代チリ社会において、マプーチェの伝統的な価値を最も強烈に体现するパーソナリティーであるマチたちは、儀礼的なマプーチェ語で語り続けている。本証言が言及するように、彼らのこうした言語行動は、彼らに憑く神（霊）の意思とも関係が深い。そして、マチ事情に精通するオスカルの証言も基本的にはマプーチェ語で行われ、儀礼用語も数多く含んでいる。

だがそれと同時に、語句、文章等様々なレベルで、オスカルが意識的・無意識的にスペイン語で発している部分も少なくない。彼のこうした言語行動に一定の社会文化上の意味や含蓄を読みとることも可能であろう。紙面の都合上、証言の社会言語的分析を行う余裕はないが、こうした微妙な含蓄も含んだ形で記述しておくため、証言は質問も含めて原語のまま筆記し、その上で原証言の意義をできるだけ忠実に反映した邦語訳を併記した。

原語による証言のうちスペイン語起源の語句およびスペイン語で発せられている部分、そして邦語訳のそれらに対応する部分については下線部を付した。また、内容のまとめごとに、スペイン語（原文）および日本語（邦語訳）でタイトルを付した。なお、文脈上問題がない範囲で省略した部分については、「(…)」という記号で示した。

3. 謝意 (Agradecimiento)

この貴重な証言を語ってくれたブランコ・レピン共同体在住の友人、オスカル・レピラオ氏に深く感謝致します。

Rume mañūmafiñ don Óscar Lepilao, ta ñi weni mülelu Blanco Lepin lof meu, ta ñi elueteu meu tūfachi fūtra kimün.

4. オスカルの証言 (Testimonio de don Óscar)

A. Versión original (原語版)

(1) El Dios crea a la machi

[Autor] Santiago pieneu ta ti como kiñe küyen peno, kiñe üllcha domo, ta mi sobrina peno, machingei pieneu.

[Óscar] Mai, mai. Sí, sí.

[Autor] Nütramkayaimi feichi dungu meu, chumnngechi ta ñi machingen ta mi malle ñawe?

[Óscar] Sí, machingei mai. Fei ta ..., mi Dios ta eli ..., machingei. Ahora machingei. Wütramfiiñ ka.

[Autor] Ya, ya, ya.

[Óscar] Kiñe semana tranalei, ilai, re lawen müten elungei. Fei wütramfiiñ ka. Fei machingei ahora.

[Autor] Ya, ya, ya. U... mmm.

[Óscar] Fei ta machingetui, pu. Kisu nüngei, fei ta machingei.

El día San Juan nüngei. San Juan küyen mu, 24 de junio nüeyu ta ñi espíritu. Nüngepai. Fei ta ta “Wütrayan” pi. Witrai ka.

Fei ta wütrafiiñ ka. Ka ahora nietuiñ, gracias a Dios, ka epu nietuiñ machi tüfa.

[Autor] Mai, mai, mai. Ta mi llalla ka, no?

[Óscar] Ta llalla, ka ta ñi sobrina, malle ñawe.

[Autor] Inei pingei ta mi malle ñawe?

[Óscar] Juana pingei. Juana Millalén. Juana Millalén Lepilao se llama.

(2) El reconocimiento oficial de la machi

[Óscar] Fei mu ta ahora, fei ahora ta ti mapuche mu tüfa ta ... Fei ta el gobierno ta como reconocetui ta machi ta autoridad pa' la comunidad, pu.

[Autor] Ah, reconocei?

[Óscar] Reconoció el gobierno. Autoridad pingei tüfa. Por eso ta iñchin ta comunidad aquí, ume faliletui ahora. Porque nien machi, pu. La comunidad que nielu ta machi lo valoriza mucho.

[Autor] Porque epu niei, entonces.

[Óscar] Iñchiñ ta epu nieiñ tüfa. La comjnidad Blanco Lepin. Y son tres en la comuna de Lautaro. No hay más machi.

Y hay solamente tres machis en la comuna de Lautaro. Külaletui mu ka.

[Autor] Ya. Entonces, Blanco Lepin lof mülei epu.

[Óscar] Epu.

[Autor] Y ka lof meu mülei kiñe müten.

[Óscar] Agua Fría Cautín pingei, fei mu ta ka kiñelei. Welu kusei machi. Múna kusei ya. Así que comuna de Lautaro mu külalei müten. Küla machi mülei.

(3) El espíritu de la abuela que se apoderó de su nieta

- [Autor] Feichi machi püllü, cómo se llama, nüteulu ta mi malle ñawe, inei ñi püllü fei?
- [Óscar] Fei ta kisu ñi püllü ta ñi ta ..., de su abuelita. Este “wiritrai” pi ta ñuke ta ñi nün.
- [Autor] ¡Ya, ya, ya!
- [Óscar] Fei ta nül wiritrai pingei²⁷ ka. (...)
- [Autor] Pero ta mi ñuke?
- [Óscar] Mai, iñche ñuke yem. ²⁸
- [Autor] Fei ta ñi espíritu ñi ta mi malle ñawe feichi San Juan meu?
- [Óscar] Mai. Su abuelita ñi. Here..., una herencia que ...
- [Autor] ¿Herencia?
- [Óscar] Heredó, pu. Por su abuela. Fei ta nüeyu ka. Fei ta nüeyu ka. Fei ta itro mu nüeyu. (...)

(4) Solamente había tenido un “sueño”, y no una “visión”

- [Autor] Welu antes de ese San Juan, doi pchikalu, ta mi malle ñawe ka peumai o perimontui kiñeke dungu ta ñi ... ?
- [Óscar] No sé, kimkalan, peumai müten dijo. Pero perimontulai.
- [Autor] Ah, perimontulai?
- [Óscar] No.
- [Autor] Peuman müten.
- [Óscar] Peuman müten. Peuma müten nüulen, nada má dijo. Fei müten nüwün dijo. Welu perimontulai.
- [Autor] Perimontulai?
- [Óscar] No.
- [Autor] O sea, como que directamente el püllü nüfi, digamos.
- [Óscar] Nüeyu ka.
- [Autor] Ka deu nülü, entonces, feichi ta ñi kalül ta fei ta..., como kimwelai?
- [Óscar] Ka kimwelai, pu. Kimwelai porque nüngelgei.

(5) Cambio de personalidad: de la “señora” a la “mujer mapuche”

- [Autor] Pero, deu niei, por ejemplo, kultrun²⁹, feichi pu instrumento pingelu?
- [Óscar] Itrokom niei. Nietui ta ñi kom vestimenta. Porque kisu ta re winka vestilekefui. Pero ahora nietui ta ñi ükülla³⁰, ta ñi chamall³¹, itrokom vestimenta mapuchengetui, pu. Ta ñi..., sea paño, too ta nietui, pu.
- Cambiatui, pu. Ahora senora³²ngewelai, pu.
- Kuifi ta re señora dungukefui ka, welu petu felekai, pu.
- [Autor] Welu mapudungukefui petu machingenolu, kam doi winka dungukefui?
- [Óscar] Re winka, señora dungukefui ka. Si ahora está mapuchedungukei müten, pu.

[Autor] O sea, cambiatui en ese sentido?

[Óscar] Cambiatui. Welu petu wimlelai, pu. Doi ta señoraulekei, mapuchedungukei. Porque costalei toavía kisu, pu. Felei, pue.

[Autor] Pero, por ejemplo, eso de ..., varias personas me han dicho que, por ejemplo, peuman mu pingেকেi, por ejemplo, winka danguwelaimi, por ejemplo. ¿Esa cosa se dice?

[Óscar] Claro, fei pingেকেi machi mu.

[Autor] Chamalltuwaimi, por ejemplo.

[Óscar] Por ejemplo, el espíritu “eimi ta machinge, ka konpai mi püllü” pingעי, “Ya fente señorawaimi. Fei ta re mapuche danguaimi. Nai ta mi dangu. Señorautulaimi vestimenta mu itrokom. Ka müte ayekatulaaime ka.” Por ejemplo, baile, mucha radio, mucha televisión no lo permiten kisu, pu. El espíritu no lo permite.

[Autor] Ver tanto televisión...

[Óscar] De tanto ver televisión, escuchar mucha radio. Entonces los prohíben. Prohibikei ka.

Entonces, ellos están más ..., digamos, que ellos están totalmente prohibido en este momento. Claro. Femngechi ñi winka danguai, inal ta ñi re mapudungun, pu.

(6) Una de las misiones de la machi es predecir las cosas que van a pasar

[Óscar] Ka femechi ta ñi rogar too lo día ta ñi rewe³³ mu, foye³⁴ mu. Su rewe.

[Autor] Fill antü?

[Óscar] Filla antü ta ñi nguillatumekeal, no solamente pa' ella, sino que pa' toa la comunidad, pa' too el sector. Pidipidingei rogamiento, kümeleal ñi pu peñi, kümeleal ta ñi pu che pimekei, pu. Fei mu ta elngei ta machi pa' eso, pu.

Entonces cualquier cosa mala mülei ta ti cheu ume, kisu anunciakeingün, pu. Mülei dangu tüfa, mülei alguna cosa pifi ka. Y pasa. Pasa cosa. Felekei ta ti.

Fei ta machi ta, mülei ta dangu, mülei nütram, pu. Porque nütramtui ka itrokom kimi, pu. Kimi dangu, pu.

[Autor] Ka peuman mu, por ejemplo, kimelngekei kiñeke dangu directamente así Chau Dios mu?

[Óscar] También. Chau Dios mu ka fei pikeeyu ka. Fali dangu, falinütramngekei ka. Fei ta nütramkakei kisu engün ka. Avisakeingün. Un aviso que dan ellos. Fei ta cualquiera cosa mülei, fei ta fei pikeingün, pu. Mülekei ta cualquier dangu. Femi ta machi, pu.

(7) La llegada del espíritu de machi en el día de San Juan

Igual que³⁵ mi sobrina tüfa mu, el día veinticuatro de junio, aquí en la misma casa nüngei ka. Aquí en la casa mía machipai.

Mekei winka bailaban, pu. Fütta bailamekei. Re winka bailamekei. Pun famechingei. Mekei iñ

fiesta. Iñchiñ celebraiñ San Juan. Pütra bailapai, pu. Locolei bailaba kisu, pu. No es que señora vestilelu kai.

[Autor] Como tipo cumbia, por ejemplo, ¿así?

[Óscar] Cumbia, mekei lle mai. Cumbia. Ahí, tüfei ta radio ta ürarmekei ta radio ka. Póngale cassette, pu. Y ahí ya meta baile, too esto, pu. toa la juventud esto. Locoleingüng ka. Locolei bailaban.

Y locolei bailaba kisu engün, cumbiaban, locoleingün, cassette, locolei tukun ka.

Y en esos momentos terminó el baile, pu. Y ahí amutui kisu ka. Y ahí ta tüfeichi menoko mülelu ta, Nicken pi ama, fei mu ta nüngei, pu. Ahí ta kimwetulai kisu, pu.

[Autor] Ah! Kimwetulai kisu? Welu kisu amui ta menoko mu?

[Óscar] Menoko mu kompui. Fei ta femngechi nüttramkaeyu, chumkei ta mawün tüfa, femmekei mawün. Wallwall-lei ko ta zapato mu ahí, pu. Kisu ahí aentro. Mekei ülkantun. Fei mu ta winkadunguwetulai, pu. Re ülkantun mekei ka. Ahí pürui ka “Machingen.” pi ka.

Iñche ta wütufin. Ka ta ñi fütta kisu nentufeyu. Ta ñi püñmo ka nentufeyu. Pero no hubo caso. Nentungelai. Porque ellos los otros re winkadungumekelu. Pensaron que ka pichi endrogale... ka chafolokolei ka pichin pülkü mu ka.

[Autor] Ah, efecto de eso, ¿digamos?

[Óscar] Efecto de toda esta... Y lo otro es que cheu feyentungeafui, pu? Fei ta tripalai.

Y ahí ta iñche llengué panta mu. Me dijeron ahí, “Amunge, ta mi sobrina felei. Pilai tripayal menoko mu. “Machingean” pimekei ta mi sobrina, pu.” Fei ta wütufiñ ka.

Y ahí estaba, pu. Konpulei chi ko mu. Mekei, wallwall-lei ko. Kisu alükonlei ahí, pu. Ahí estaba, pu. Vestiu.

Y ahí me dijo, pu. Pürui ka ülkantui. “Iñche ta machingean. Akui plazo. Deu ta witrayan. Deu machingean. Unuu ume ta atajalayaenu. Porque deu ta nungen. Deu ka chengetun. Deu ta machingean tüfa. Wütrayan. Akui ta ñi plazo. Epu mari tripantu mu elueneu plazo. Y akui ta epu mari tripantu tüfa. Fei ta ahora ta machingean. Witrayan.” pi.

Fei mu ta iñche mapudungufiñ altiro, pu. Y lladkütueneu, pu. Pilafui iñche mu. “Eimi wekufü nieimi,” pieneu ka. “Amutunge. Eimi ta wekufü³⁶ ta nieimi,” pi. “Seguramente inayaulei wekufüfe. Amutunge,” me dijo. Ütrüftueneu ko mu. Me tiró barro too. Me dejó como mono aquí. Estaba todo sucio.

Ahí después, a la segunda vez kai pifiñ ka. “Ya que machingealu eimi. Entonces, kúme dungu mu wütrayaimi. Chem adimi, chem atao ta dungu. Iñche ta mapuche, wüchalmachiken iñche. Así que iñche ta kimnien ta dungu.” pin.

Y ahí, ülkantumekei. “Machingean.” dijo. “Deu ta akutui ta wiritrai. Wiritrai ta wütratuai. Machingean ta tüfei iñche. Unuu ume ta atajalaenu. Unuu ume ta atajala... Unuu ume ta chemlaenu. Porque iñche ta machingean.”

Así kai pifiñ. Ka amun ka. Ka kontupufun. Fei ta “Machingeker eimi,” le dije yo. “Welu tripapange. Chemauiimi fau mu? Konleimi ko mu ta ti. Tripapange. Deu machingealu, witrayaimi. Entonces inchiñ ta witrāmayaeyu. Inchiñ ta dungumaiñ. Porque, ya que machingealu eimi,” pifiñ.

Así que fei ula tripai, pu. Fei ula me pasó la mano, y ahí, nüfiñ, y ahí la saqué pá fuera. Nentupatufiñ.
Y ahí amutui cantando ruka mu, kisu ruka mu.

[Autor] Cantando mapudungun mu?

[Óscar] Re mapudungun, pu. Ülkantun amui. Iñche küpatun ka.

Fei ta cortalai, pu. Amulei, pu. Puwi aquí ta ruka üyeu. Y ahí puulu ruka mu, ta ñi llalla ta ruka mu, ahí nentui ta ropa. Tritrantuwi, pu. Ahí estaba entrando..., itrokom nentui ta ñi pantalón.

Re pantalón usakefui ka. Señorarekefulu kai. Re pantalón niekefui. Vestiu ume ta usakelafui ka kisu. Así que ahora otrangetui ahora.

[Autor] Como ka chengetui reke, digamos.

[Óscar] Kachengetui ahora. Ahora está totalmente cambiao. Cambiangetui pu, ahora. Mapucheletui ahora, pu. Fei ta obligao ta... Ka chem piafuiñ.

Trapumuwiñ ka al otro día pemefiñ. Pemefilu iñche fei ta ka fei pi ka. “Machingean.” Y pidipidingei vestimenta, kultrun, “Deu machingean iñche.” pi. Así que wütran obligao. Ka chem piafiñ ka.

Fei ta dunguluwuiñ pu peñiwen, ta ñi nuke. Fei ta “wutramafiñ” pin nga. Fei ta, y iñche ta feipifiñ. Kakelu ta fei pifui “Ya. Dejemos alün plazo.” pifui. No podimos. Porque estaba sufriendo³⁷, pu. Es que tranalei müten, botao no má y sufrilei, pu. Así que, fei mu ta wütrafimealu, semana müten witrafiñ ka.

[Autor] Ah, semana meu müten?

[Óscar] Sí. Wütrafiñ. Fei ta, fei mu ta too lo que pidieron ..., kisu espíritu fei pi, “Famaimün. Famuluwaimün pa’ que machingeal. Porque si no, wesa tripalmün, kastigaafun³⁷ machi mu. Así que, kastingekefulu we machi, we domo. Así que küme, chem pin ta mün dungu, itro mu hacecasemün.” Fei mu ta femiñ ka. Fei mu ta machingei. Machi.

(8) Colaboración por parte del alcalde municipal

Fei mu ta iñche ta pu ruka ta amun ta wirintukumen pepel mu, Municipalidad mu amun ta, señor alcalde pu ruka ka. Porque kisu, tüfa ta ükülla ta müna fali plata, pu. Ükülla ta fali. Chamall ta fali. Ükülla ta vale como parece que como diecisiete mil pesos me costó el ükülla. Chamall me costó once mil. Sea paño, algo de tres mil pesos. Cinta.

Fei ta inche ta como siempre me conocen en la municipalidad. El señor alcalde kimnien itrokom. Y pu ruka tüfa con mi hija wirintukuiñ papel, pu. Hicimos un escrito. Hicimos un escrito altiro.

Pu ruka amun allá. Puwün municipalidad mu. Como kimniengelu iñche, “Aquí, adelante. Pase, adelante. Chem am nieimi? ¿Qué problema nieimi?” pingén.

“Resulta iñche ta nien ta tüfa ta problema ta nien. Ka apareció nuevamente otro machi en mi reducción. En mi comunidad apareció otro machi nuevo. Y resulta que esto me falta. Machi que no tiene nada. Es una niña jóven, kimlai. Y además esa persona son también un matrimonio recién

formando una casa y son de escasos recursos, de situación mala. Y yo vengo a acudir al señor alcalde. Y quiero conversar con él y quiero hablar con él. Porque chumpean ta tufa ta kultrún petu pidingelu kultrun, ükülla, chamall, delantal, sea paño. Chumpean ta tufa iñche. Nielai ka kisu ka nielai ka kisu engu.”

Y fei ta pu ruka nüñmangen papel, y amun alcalde mu. El alcalde nüñmaeneu. “Ya!” am ta alcalde dijo, “¡Ya! Pa’ usted. ¡Ya, ya! ¡Listo! ¡Ya, ya! Inmediatamente soluciono el problema. El kultrun, ükülla y chamall.” pingen altiro.

[Autor] O sea, feyentukei también el alcalde feichi dungu?

[Óscar] Feyentui altiro porque kisu kimniei. Porque ngepakei ruka mu, llalla mu. Kisu ta ipakei itrokom, pu. Matetukei, iñakei llalla mu, machi mu el alcalde. Fei mu ta kisu ta kimniei kisu dungu ka. (...)

Y ahí se armó la machi. Ahora gracias a Dios y tiene suerte ella. Se formó con regalo elngei ta ti. Otros elueyu, su hermana, su parientes, su tía. Y ahora se encontró con cuatro ükülla nuevos y más chamall. Eso lo regalaron a ella. Nietufi vestimenta ahora.

No le costó nada. Si realmente no sufrió ná y no costó ná, pu.

No como mi llalla. Mi llalla sufrió porque nosotros aquí tuvimos que hacer negocio, vender animalito, tenía que vender así pa’ poder comprar el vestimenta. Porque nosotros no sabíamos que la municipalidad ..., todavía no había reconocido el machi ná ni una cosa. Y les costó mucho para vestirlo a ella. Ka kiñe vecina kultrun nguillali ka kiñe pichi kultrun, así chico no má.

Pero ahora no, pu. Ahora acá ella tuvo suerte, pu. Tuvo hartu vestimenta ella. Nietui ta ti. Fei ta machingei ka. Ahora machingei, pu.

(9) “Wiritrai”, el espíritu de “machi” que volvió después de 20 años

[Autor] Kiñe ramtun. Eimi pimi ta plazo, epu mari tripanu plazo deu puwi, digamos. Pero eso se refiere al espíritu de ta mi ñuke?

[Óscar] No, no, no, sino que kisu ta markangei ta ... Por ejemplo, ella tenía momento doce años cuando... Doce años tenía ella, le dijeron ya. Lo marcaron, le dijeron. De repente la agarró el espíritu. “¡Ya!” Doce años tenía. “¡Ya! Al veinte año voy a volver. Veinte años, usted va a ser machi. “Y llegó su veinte años a los treinta y dos años. Tenía doce años ella de edad, nüngei, lo agarraron. Y veinte años llegó el plazo, a los treinta y dos años machingetui.

[Autor] Pero, entonces, feichi mari epu tripanu nielu fei ta nüngei, cierto? Nüeyu feichi püllü.

[Óscar] Fei ta ñuke, ta ñi..., su abuelita ñi püllü nüeyu ka.

[Autor] Claro. Ta mi ñuke ñi püllü, digamos.

[Óscar] Mai.

[Autor] Ta mi ñuke ñi püllü feichitu ta pifi feichi dungu.

[Óscar] Claro. Fei pikunungei. “¡Ya!. Epu mari tripanu mu wüñoan” pingei. Fei mu ta wütrayalu.

Fei ta wütrayai epu año ka. Tüfa ta küla mari epu tripantu nietui ahora.

[Autor] Usted sabía que le fue dicho a ...

[Óscar] Sí, sí, sí. Porque petu mongelei ta ñuke fei pi, pu. Ta ñuke ta petu mongelei. Tenía doce años ella, y de repente locoumei. Mi mamá petu mongelei. De repente kisu locoumei ella wütraumei foye. El día San Juan, lo mismo día San Juan. Y dijo la Juana.

Y ahí estaba vivo su papá de Juana también, señor Seferino. Ahí dijo, dijo su papá. “Iñche muna pofrengen, ³⁸” dijo, “Chumngechi nga machial ñi ñawe?” dijo.

Y ahí le dijeron, pu. Ahí le dijo mi mamá después nentueyu. Le dijo que “A los veinte años va a volver éste. Y ahí va a ser machi.”

Así que así fue, pu. Llegó los veinte años de plazo. Tenía doce años cuando lo agarraron a ella. Nüngei. Doce años. Mari epu tripantu niei. Nüeyu ta espíritu.

[Autor] Welu feichitu ta petu mongelei ta mi ñuke?

[Óscar] Petu mongelei ñi ñuke. Por eso kisu ta ñi, iñche ta ñi sobrina, iñche ta ñi ñuke ngillatuñmaeyu y ahí le dijo. Y “Muy jóven petu. Petu pichi domo. Chumngealu, machingealu” rogó. “Petu machingelai mejor,” rongamei. Fei ta, ahí le dijeron que a los veinte años wiñoai. Va a volver. Y fei mu ta machingetui. Y machingetui, pu.

Y realmente, oiga, no sé, winkadungun ta ti digo yo, no sé, por eso que dice mi Dios. Yo realmente creo en Dios y creo en el espíritu, que uno tiene espíritu. Y el espíritu, muere uno, sigue viviendo el espíritu. Y verdad que muna feingetui. Porque iñche, ta ñuke kisu fei pi ta ti. “Ahora” dijo, “akutui ta wiritrai, kuifi machingekefui ta chi mapu mu. Machingekefui.”

Epu mari tripantu mu lai ta ñuke. Ve lo que es. Wenu mapu mülepakefui. Ahora volvió. A tierra. Wüñotui. ¿No ve? El espíritu de mi mamá kisu ta ti mülekefui kuifi tüfa mu. Machingekefui kisu. Y ahora murió mi mamá, la caja, por ejemplo, la carne murió ta ti, se fue pa'l cielo. Y ahora ella volvió. Llegó nuevamente a tierra. Ka akutui. Pero a través, usando el instrumento, cuerpo de su sobrina, de su nieta. Así.

Oye, increíble. Yo me doy cuenta. Porque kimken ahora, rakiduamken que es pura verdad que el espíritu de uno tripai wenu mapu, y después ka wünotui. Vive el espíritu, dicen, y es verdad. Kisu fei pi, pu. “Tüfa ta ti iñche, ella mismo, “machingealu” fei pi. “Yo, iñche, kuifi ka machingekefun. Mülepakefun mapu mu kuifi. Tüfa mu nga mülekefui nga wiritrai. Tüfachi lepün mülekefui. Fei nga después nga amui, ka mapu ngetui. Latui, amutui nga wenu mapu. Y ahora, ka akutui. Naüpatui ta wiritrai, mülepatui tüfa. Ka antüpatui ta ñi kisu ñi lepün. Kisu ta ñi lepün mu, kuifi kisu ta ñi reducción mu, ka akui ta wiritrai, ka mülepatui.”

Y ahora existe otra vez wiritrai. Wiñomei wenu mapu, fei ka ahora ka mülepatui ta ti. Usando lo su nieta ahora, el cuerpo de su nieta. (...)

Va por herencia esto. Porque mi mamá era antes, su mamá era machi, abuelita de nosotros. Ahí después siguió ella. Kisu ka machingetui. Y ahora agarró a su nieta. Kisu ñi nieta ahora es machi. ¿No ve?

Fei mu ta ti, y ahora nietuñ otro machi ka. Ka ñuke ngetun, pu. O sea, mi mamá ka mülepatui. Ahora akutui ñuke, mi mamá. Mi madre ahora está otra vez, nuevamente mi mamá. Pero no mi mamá de verdad sino que usando el instrumento otro ...

Por eso mi Dios en cualquier momento se puede aparecer de uno mismo aquí, puede aparecer a cualquier persona mi Dios. Claro. Así. Feimi ta ti, peñi³⁹.

B. 邦語訳（Versión en japonés）

（１）神がマチをお創りになる

「筆者」サンティアゴさんに聞いたのですが、一ヶ月前位にですか、ある若い娘さんが、あなたの姪ごさんですか、マチになったと聞いたんですけど。

「オスカル」ああ、ああ。その通りだよ。

「筆者」その事について話してくれますか、あなたの姪がどのようにしてマチになったかということ。

「オスカル」うん、マチになったとも。つまり、我が神様が仕立てたので、それでマチになったのさ。今ではマチなんだ。わしらも力添えしたんだがな。

「筆者」はい、はい、はい。ふーむ。

「オスカル」一週間寝たきりで、食事を取らず、ただ薬草だけを与えられた。それでわしらがあの娘を一人立ちさせてやったのさ。それで、今ではマチになったというわけだ。

それでマチになった。

「筆者」ああ、ああ、ああ。ふーむ。

「オスカル」それでマチになったんだよ。あの娘は（霊的存在に）憑かれてな。それでマチになった。

聖フアンの日に憑かれたのさ。聖フアンの月、6月24日に（今の）自分の霊が憑いた。憑かれたんだ。それで「わしはマチになるぞよ。」って言ってな。で、一人立ちしたんだ。

それで、わしらが力添えしてやったんだ。それで、今ではわれわれにはおるように、神様のお陰でな、またわしらんところにはマチが二人おるようになったんだよ、今ではな。

「筆者」ええ、はい、はい。あなたの姑さんとですよね。

「オスカル」姑さんとわしの姪とな、母方の姪だ。

「筆者」あなたの姪ごさんは何という名前ですか。

「オスカル」フアナという。フアナ・ミジャレン。フアナ・ミジャレン・レピラオという。

（２）政府によるマチ公認

「オスカル」それで今では、で今はマプーチェに対して、今ではな…。それで政府は、マチを共同体にとっての権威としていわば認めるようになったんだよ。

「筆者」 ああ、認めたのですか。

「オスカル」 政府は認めたんだ。これは「権威」っていうやつだがな。それで我々、ここの共同体はとても高く評価されるようになってるんだ。なぜってマチがいるのだからな。マチがいる共同体は、高く評価される。

「筆者」 というのは、二人いるからというわけですね、つまり。

「オスカル」 今や、われわれのそこには二人いるんだ。ブランコ・レピン共同体にな。で、ラウタロ区全体で3人しかおらん。それ以上マチはおらんのだ。

「筆者」 なるほど。それでは、ブランコ・レピン共同体に二人いると。

「オスカル」 二人だ。

「筆者」 で、別の共同体には一人いるだけですね。

「オスカル」 アグア・フリーア・カウティンという名のな、そこにも一人おる。だが、年老いたマチじゃ。もうとても老いておる。というわけで、ラウタロ区には3名いるだけだよ。マチは3人しかおらん。

(3) 孫に憑いた祖母の魂

「筆者」 そのマチの魂、何といいましたか、あなたの姪ごさんに憑いたやつ、それは誰の魂ですか。

「オスカル」 そのあの娘の魂、憑いたのはな…、彼女の祖母のものだよ。このな、「ウィリトライ」という名だ、わしの母に憑いていた霊だ。

「筆者」 ああ、なるほど、なるほど。

「オスカル」 それで憑かれたもの（姪）も「ウィリトライ」という名²⁷なのだよ。（…）

「筆者」 でもそれはあなたのお母さんなんですか。

「オスカル」 そう、わしの亡き母じゃ。²⁸（…）

「筆者」 お母さんの魂があなたの姪ごさんに憑いたんですか、そのサン・フアンの日に？

「オスカル」 ああ。あの娘の祖母が憑いたのだ。継い…、一つの遺産としてだな…。

「筆者」 遺産ですか。

「オスカル」 継いだわけだよ。自分の祖母を通じてな。それがあの娘に憑いた。それが憑いたのだ。それが完全に憑いたのだよ。（…）

(4) 見たのは「夢」だけ、「幻影」は見えていない

「筆者」 でも、その聖フアンの日よりも前、もっと幼い時に、姪ごさんは「夢」を見たのですか、それとも何らかの物を「幻影」で見えて…。

「オスカル」 さあ、よく知らんが、夢を見ただけだと言ったな。だが、「幻影」は見えておらん。

「筆者」 ああ、幻影は見えていないんですか？

「オスカル」 うん。

「筆者」夢だけなんですね。

「オスカル」夢だけだ。夢で見て憑かれている、それだけだと言ったのだ。それで憑かれただけだとな。だが、「幻影」は見ておらん。

「筆者」「幻影」は見ていないんですね。

「オスカル」ああ。

「筆者」ということは、いわば直接その霊が憑いた、とでもいいましょうか。

「オスカル」憑かれたのだよ。

「筆者」それで、霊に憑かれた後、それでは、その彼女の体は…、意識を失ったようになったのですか。

「オスカル」意識を無くしたのだよ。意識が無くなった、なぜって霊に憑かれたのだからな。

（5）人格転換：「セニョーラ」から「マプーチェ女性」に

「筆者」でも、もう持っているのですか、例えばクルトゥルン²⁹とか、いろいろな「楽器」というやつは。

「オスカル」全て持つておる。あらゆる（マプーチェの伝統的な）装束を持つようになった。というのは、あの娘はそれまではウィンカの服ばかり着ておったのだよ。でも今では自分のウクーリヤ³⁰も、自分のチャマル³¹も、装束といえば全てマプーチェのものを身につけるようになったのさ。自分の…、布地であろうと何だろうと、全てを持つようになったんだよ。

人が変わったのさ。今ではもう「セニョーラ」³²ではなくなったんだよ。

「オスカル」昔は完全にセニョーラのように話していたんだ。もっとも、まだその癖は残っているけどな。

「筆者」でもマチになる前はマプーチェ語を話していたんですか、それともウィンカ語の方をよく話していたんですか。

「オスカル」ウィンカ語ばかり、セニョーラの言葉を話していた。でも今ではマプーチェ語ばかり話しているのだよ。

「筆者」ということは、その意味で人が変わったということですか。

「オスカル」変わった。だがまだ慣れてはおらんがな。まだあの娘のマプーチェ語にはセニョーラなまりがかなり残っておる。なぜって、まだ彼女にとっては大変だからな。そうなのだよ。

「筆者」でも、例えばその…、何人かの人に言われたのですが、例えば夢の中で言われるのですか、例えば「もうウィンカ語は話さないように。」とか。そういうことは言われるのですか。

「オスカル」その通り、マチはそのように言われるのだ。

「筆者」「これからはチャマルを着るように、とか。

「オスカル」例えば（憑かれる）霊に、「お前はマチになるのだ。そして（お前には）お前の魂が入ったのだ。」と言われたりする。「もうセニョーラのように振る舞うのはこれっき

にするように。それで、これからはマプーチェ語だけを話すように。全く、今までのような風ではいけない。これからはセニョーラのような風ではだめだ、装束でも何でもな。それにあまり遊び呆けてはだめだよ。」と。例えば、ダンスとかあまりラジオを聞くとか、あまりテレビを見るとか、そういうことは許さない。霊がそれを許さないのだ。

「筆者」あまりテレビを見ることをね…。

「オスカル」そんなにテレビを見ること、あまりラジオを聴くことをな。それで、そうした事を禁じておる。禁じているのだよ。

というわけで、彼ら（マチたち）はもっと…、つまり、彼らはそうした事は完全に禁止されておるのだよ。そうだと。そんな風にウィンカ語を話すことはな、マプーチェ語だけを話すようにとな。

（6）「予言」もマチの使命の一つ

で、そうして、毎日自分のレウェ³³んとこで、フォイエ³⁴のところで祈るのさ。自分のレウェでな。

「筆者」一日中ですか。

「オスカル」一日中祈りを捧げる、彼女自身のためだけではなく、共同体のみんなのため、地域みんなのためにな。懇願の祈りをして、兄弟たちが元気のように、人々が元気でいられるようにとってな。それで、マチはそのために創られるのだからな。

それで、どんな悪いことがどこで起ころうとも、マチは予告するんだよ。ここでこんな事が起こる、何か事が起こるであろう、そう言ってな。で、実際にそうなる。事が起きる。そんな風になるんだ。

それでマチはな、事が起こる時には、お告げがあるんだよ。なぜってお告げがあって、全てをお見通しだからな。事の次第を知るのだよ。

「筆者」それから夢でも、例えば、ある事柄について、直接こんな風に父なる神から教わるんですか。

「オスカル」それもあ。父なる神も（マチに）事を告げる。ありがたい事柄、ありがたいお言葉をな。それでマチたちもお告げをするんだ。予告するのさ。彼らは一つの予告を行うのだ。それでどんな事が起こる時にも、告げるのだよ。どんな事でもこれから起こることをな。そんな風にするんだよ、マチはな。

（7）聖フアンの祝日におけるマチ霊の降臨

「オスカル」同じように³⁵わしの姪もここで、6月24日に他ならぬこの家で憑かれた。このわしの家でマチになったのだ。

ウィンカのダンスを踊りまくっていたんだよ。とても激しく踊っていた。ウィンカのダンスばかり踊っていた。こんな夜のことだ。わしらはパーティーの真っ最中だった。聖フアン

の日を祝っていたのだ。踊りまくっていたのだよ。あの娘は呆けたようにダンスを踊っていたんだよ。というのは、セニョーラの服装をしていたからな。

「筆者」クンビアのような踊りですか、例えば、こんな風な。

「オスカル」クンビアだ、踊りに熱中していた。クンビアにな。でその時は、そのラジオがけたたましく鳴っていた、ラジオもな。次から次にカセットをかけてな。それでもう、踊りに熱中して、この連中がみな、この若い者みんながな。呆けたようになっていた。気が触れたように踊っていたんだ。

で、彼らは呆けたように踊り、クンビアを踊り、呆けたようになって、カセットをな、気が触れたようにかけておった。

で、その時、踊りが終わったのだよ。すると（あの娘は）外に出て行った。それで、その沼のあるところ、ニエケンというはずだが、そこで（霊に）憑かれたのだよ。そこであの娘は意識を失ったんだよ。

「筆者」ああ、その娘は意識を失ったのですか。でも、彼女は沼へ行っただけですね。

「オスカル」沼に入ったんだ。それで、そんな風に今あんたに話しているようにな、今雨が降っているように雨が降り続いておった。そこで完全に水につかっておった、靴のままでな。あの娘はその沼の中でな。さかんに歌を歌っていた。それで、もうウィンカ語は話さなくなっていたのだよ。生粋の（マプーチェの）歌を歌っておった。それで、踊り「わしはマチになったぞよ」と言ったのだよ。

で、わしは駆けつけた。それから、あの娘の旦那が彼女をあの娘を引っ張り出そうとした。あの娘の舅も彼女を引っ張り出そうとそうとした。でもどうにもできなかった。引っ張り出すことはできなかったんだ。というのは、彼ら他の者たちはウィンカの言葉でばかり話しかけていたからな。きっと少し薬のせいであって、また風邪でぼうっとしていたし、少々酒も入っていたせいだと思ったんだな。

「筆者」ああ、つまりそういうことの影響だろう、とね。

「オスカル」すべてはこうしたことの影響であって、それからまた、一体どうやって信じろというんだね。それであの娘はそこから出ようとはしなかったんだ。

それでわしが沼にやって来たというわけだ。こう言われてな、「行ってやっておくれ。あんたの姪がこんな風になっている。沼から出ようとはしないんだ。あんたの姪は『わたしはマチになる』なんぞと言い張っているんだよ。」と言われたのでな。それでわしは駆けつけた。

確かにそこにおったのだよ。水の中に入っていた。頑として水の中に浸かっていた。あの娘はそこで深く水に入り込んでいたんだよ。そんな風にしていたのだよ。服を着たままでな。

それでこうわしに言ったんだよ。踊って歌いながらな。「わしはマチになるぞ。期限がやって来た。もう一人立ちする時なのだ。わしはもうマチになるぞよ。だれとてわしの邪魔をする事はできぬ。なぜならもうわたしは憑かれたのだから。もうわたしは生まれ変わったのだ。もうわしはマチになる。一人立ちするのだ。わしの期限は来た。わしには20年の期限が与えられていたのだ。それで、もうその二十年は過ぎた。それで今こそわしはマチにならん。一人立ちするぞよ。」と、そう言ったんだよ。

そこでわしはすかさずマプーチェ語であの娘に話しかけたのだよ。すると怒ってわしにこう答えるんだな。わしの言うことに従おうとはせずにな。「お前にはウェクフ（悪霊）が憑いておる。」とわしに言ったのだよ。「立ち去れ！お前にはウェクフ³⁶が憑いておる。」と言ってな。「（お前の）後ろには悪霊使いが控えているに違いない！」、そうわしに言うんだ。で、わしに水をかけたんだよ。わしは泥だらけにされちまった。こんなに全くひどい有様にされただよ。全身汚い有様にな。

そこでその後、もう一度あの娘に言ってやった。「お前はマチになるんだからな。それなら正しいやり方で一人立ちしないといけないよ。どんな恰好をするのか、どんないろいろな事柄を修得するのか（をふまえてな）。わしはマプーチェだし、マチ通訳をしているこのわしだ。だからわしには事の次第はわかっているんだよ。」そう言ってやったんだ。

するとそこであの娘は歌い続けるんだ。「わしはマチになるぞ。」と、そう言ってな。「ここにウィリトライ参上。ウィリトゥライは再び立ち上がる。今こそわしはマチになろうぞ。誰もわたしを邪魔だてできぬ。誰とて止められはできぬ…。誰もわしをどうすることもできぬ。何故ならわしはマチになるのだからな。」

それで、わしはまたあの娘に話しかけた。またあの娘のところへ行ってな。また（水の中）に入って行ってな。それで、「お前はマチになるというのだね。」とわしはあの娘に言った。「だが、出てきなさい。ここではどうしようもなからう、こんな風に水に浸かっているはね。出てきなさい。これからもうマチになるのだから、お前はもう一人立ちするのだからね。だから、わしらはお前が一人立ちする手伝いをしてあげようというのだよ。お前のために話をしてあげよう。なぜなら、お前はマチになるのだから。」そうあの娘に言ってやったんだ。

すると、その後やっと水から出てきたんだよ。それからわしに手をさし出してな、それでわしはあの娘を抱きかかえ、で外に出してやった。沼の外に連れ出したんだよ。それからあの娘は歌いながら家に帰って行った、自分の家にな。

「筆者」歌いながらというのはマプーチェ語でですか。

「オスカル」マプーチェ語だけでだとも。歌を歌って行った。で、わしも帰ったんだ。

それからずっとそのままだよ。事は続いているのだ。ここに着いた、あちらの家にな。それで、あっちの家、姑の家に着いたところでな、そこで服を脱ぎ捨てた。裸になったんだよ。そこに入ったかと思うと…身につけているものを全て脱いだんだ、ズボンもな。

それまでは（西洋式の）ズボンばかり履いていたからな。セニョーラのような恰好をしていたんだ。ズボンばかり履いていた。あの娘はワンピースの類すら着ることがなかったんだよ。というわけで、今では別人になったのだ。

「筆者」いわば他の人間になった、とでも言いますか。

「オスカル」今では別人になった。今では完全に違う風になっておる。変わったのだよ、今ではな。今ではマプーチェらしくなったのさ。あの娘は義務付けられて…。それにわしらがとやかく言っても仕方あるまい。

それでわしらは集まって、次の日あの娘に会いに行った。わしがあの娘に会うとまたこう言うんだ、「わしはマチになるぞよ。」とな。それで装束やクルトゥルンを所望したわけだ。

「もうわしはマチになるぞ。」と言ってな。というわけでマチとして一人立ちする事を義務付けられておる。それにわしらがどう言うこともできません。

それでわしらは兄弟同士で、あの娘の母親も交えて話し合った。それで、「あの娘を一人立ちさせてやろう。」とわしは提案したんだ。それで、でわしはそう言ったんだよ。他のものたちは言うんだ、「よかろう。（だがお披露目まで）長い時間を置こう。」とな。だがそうはできなかった。なぜならあの娘は苦しんでいた³⁷んだからな。というのは、ただ横になったままで、ほったらかしにされて苦しんでいたからだよ。というわけで、それでマチに仕立てるということになって、一週間であの娘をお披露目したんだ。

「筆者」ああ、たった一週間でですか。

「オスカル」そう。一人立ちさせたのだ。それで、そんなわけで求められたものを全て、というのはあの娘の（あの娘に憑いた）霊がこう言うんでな。「お前たち、そうするように。この娘がマチになれるようお互いにそんな風にするように。というのは、さもなくば、もしお前たちが事をまずく運べば、わしがマチに罰を授ける³⁷ことになる。つまり、新米のマチ、マチになったばかりの娘が罰せられることがあるのだ。だから、立派に、何でもお前たちが言われたことは、全て尊重しなければならぬ。」とな。それでわれわれはそう運んだってわけだ。それであの娘はマチになったんだよ。マチにな。

（8）区長による援助

それでわしは（役所の）建物に行って、紙に書き込んだのだ、区役所へ、それから区長殿の家にもな。というのはあの人は、これ、ウクーリャはとても金がかかるからな。ウクーリャは高い。チャマルは高い。ウクーリャは大体、確か約1万7千ペソ位金がかかったのだ、ウクーリャはな。チャマルには1万千ペソくらいかかった。布なんかも、大体3千ペソくらいだ。帯もな。

それでわしは、普段からわしは市役所の連中と顔馴染みの仲だ。市長殿とも懇意にしておる、皆とな。それでこの家の中で、娘に手伝ってもらって書類に書き込んだのだ。わしらは書類を一つ作製した。直ちに書類を作ったのだ。

で、わしはあちらの建物に行った。区役所に着いたのだ。わしは（役所の連中に）知られておるので、「こちらへどうぞ。さあ、お入り下さい。何のご用向きで？何か問題がおありですか。」そう言われたのだ。

「実は、わしは今問題を抱えています。また新たに別のマチがわしの共同体に現れた。わしの共同体にもう一人の新しいマチが現れたんです。で実は、これこれが足りないんです。そのマチは何も持っていないくて。彼女は若い娘で、何も知らないんです。その上、その者はまた家庭を築き始めたばかりの夫婦で、資金も少なく、貧しいのです。それで、わしは区長殿におすがりしようとやってきたわけです。で、あの人と話がしたい、あの人と話したいんです。なぜって、どうしようもありますまい、今でもクルトゥルン太鼓を与えるよう要求しているんですから。クルトゥルン、ウクーリャ、チャマル、前掛けとか布とかをね。どうする

こともできません、私にはね。資金などなく、あの者にも資金はなくて、二人とも資金などないんですから。」

それで、役所のものが（わしの書いた）書類を受け取り、わしは区長のもとへ行った。すると区長は書類を手にとった。「よしきた！」と区長は言った。「よしと。これをお持ちなさい。よしよし。オーケー。よしよしと。直ちに問題を解決してあげましょう。そのクルトウルンもウクーリャもチャマルもね。」と、わしはすぐにそう言われたのだよ。

「筆者」つまり、区長もそうした事を信じているんですか。

「オスカル」すぐに信用してくれた、何故ならあの人は熟知しておるからな。というのは、家にも、姑さんのところにも来るしな。あの人は（わしらと一緒に）何でも食べる。マテ茶も飲んで、姑のところで過ごすのさ、区長はマチのところでな。だからあの人も事に通じているのだよ。（…）

そんな風にしてそのマチは仕立て上げられたってわけだ。今では神様のお陰で、あの娘は運がいい。贈り物をもらってマチになれた、一人立ちさせてもらったのだ。他の人たちにもらって、姉さん、親類の者とか、叔母さんとかにな。で今では、新しいウクーリャを4枚、その他にチャマルも持ってる。そうした品を彼女は贈られたのだ。今では装束を備えておる。全く出費はかからなかった。本当に全く苦労はしなかった、全く出費はかかっておらんのだからな。

わしの姑さんの場合とは違った。わしの姑さんは苦労したものだ、何故ならここではわしらは商売せねばならなかった、そんな風に装束を買うために家畜を売らなければならなかった。というのはわしらは知らなかったからな、区役所が…、まだマチのことも何も公認しておらんかったしな。で、あの人の装束を揃えるのには苦労した。それに隣の奥さんからクルトウルンを売ってもらった、こんなほんの小さなクルトウルンをな。

だが今は違うのだよ。今ではここで、あの娘は運がよかったのだ。彼女はたくさんの装束を手に入れた。持つことができたのだ。それでマチになった。今ではマチになったのだよ。

（9）20年後に帰還したマチ霊「ウィリトライ」

「筆者」一つ質問があります。あなたは「期限」と言われた、つまり二十年の期日が過ぎたとね。でもそれはあなたのお母さんの魂のことですか。

「オスカル」いや、いや、いや、そうではなくて、あの娘が印を付けられてだな…。例えば、彼女が12歳だったときの事だ…。彼女は12歳だったときにもう宣告されたんだ。印を付けられ、宣告された。突然霊に憑かれたんだよ。「さあ！」ってな。歳は12だった。それで「よかろう。20年後にわしは戻ってこよう。20年たったらあんたはマチになるのだ。」とな。それから、自分に定められた20年が過ぎて32歳になった。年齢が12歳の時に憑かれた、（霊に）憑かれたのだ。それで20年発ったところで期限が来て、32歳でマチになったってわけだ。

「筆者」でも、それではその12歳だった時に憑かれたと、ですよね。その魂がその娘に悪い

たと。

「オスカル」それは母、わしの…、あの娘の祖母の魂が憑いたのじゃ。

「筆者」はい。つまり、あなたのお母さんの魂ですね。

「オスカル」ああ。

「筆者」あなたのお母さんの魂がその時にそう言ったと。

「オスカル」そのとおり。そう言い残したのだ。「よろしい。わしは20年発ったら戻るとしよう。」そう言ってな。それでマチに成り立つことになった。それで2年後（20年後）にマチになることになったのだ。今あの娘は32歳の年齢になっておる。

「筆者」あなたはそう言われたことを知っていたんですか、彼女が…。

「オスカル」ああ、うん、うん。というのはわしの母はまだ生きていて、そう言ったんだよ。母の生前のことだった。あの娘は12歳で、それで突然気がふれたようになったんだ。わしの母がまだ生きておった時のことだ。突然気がふれたようになって、あの娘はフォイエを植えた。聖フアンの祝日、同じ聖フアンの祝日のことだった。それで、フアナは口を開いたんだ。

でその頃は彼女の父親、セフェリーノ氏も健在だった。それでこう言った、彼女の父親はこう言ったんだ。「わしはとても貧乏なのに³⁸。」と言ってな。「一体どうして娘をマチになんぞにしてやれるものかね。」と、そう言ったのだよ。

すると（セフェリーノ氏は）こう告げられたんだ。後でわしの母があの人にこう説いた。「20年経ったらこの魂は戻ってくる。その時にはこの娘はマチになるのだ。」そうあの人に言ったんだ。

というわけで、本当にそうなったんだよ。20年の期限がやってきた。あの娘が霊に憑かれたのは12歳の時だった。憑依されたんだ。12歳の時だ。12歳の年齢だった。霊があの人に憑いたんだ。

「筆者」でもその頃、まだあなたのお母さんは生きておられたんですね。

「オスカル」わしの母はまだ健在だった。だから自分の…、わしの姪のためにわしの母は祈り、それで（霊に）こう言ったのさ。つまり、「（あの娘は）まだ若すぎます。まだほんの小娘なんです。どうしてマチになんぞなれますものか。」と嘆願した。「まだマチにさせないほうがよろしいでしょう。」と嘆願したのだ。で、すると（霊は）母に、20年後に戻ってくると告げたんだ。戻ってくるとね。で、それであの娘は（今では）マチになった。それでマチになったわけだよ。

で本当に、あのね、何というか、ウィンカ語（スペイン語）で言わせてもらうが、何と云うか、だから我が神様は言われるのだ。わしは本当に神を信じる、魂というものを信じる、人間には魂があるってことをな。で魂は、人が死んでも魂は生き続ける。で本当に、まったくその通りになったんだ。というのは、わしの母はそう言ったんだから。「ここにウィリトライ帰還。わしはむかしこの地上にてマチであった。マチであったのだぞよ。」と言ってな。

母が死んだのは20年前のことだ。事の次第がわかるだろ。天界にいたんだよ。それで今戻って来た。地上にな。戻ったのさ。な。わしの母の魂、それは昔この地におった。その方はマ

チだったのだ。それで今では母は死に、容れ物、つまり肉体は死んで、(霊は)天国へ行った。だが今あの人は戻ってきた。ふたたび地上にやって来た。再び戻って来たんだ。だがそれは、「道具」を、姪の、孫の体を使ってなんだ。そういうことさ。

あのな、ほんとに信じられないような事だが。わしにはわかる。なぜって今なら知っていて、考えてみるんだが、紛れもない真実なのさ、人の魂は一度天界へ去り、その後で戻って来るということがな。魂は生き続けると人は言うが、本当なのさ。あの人(かつて母に憑いていた魂)は言ったんだよ。「これからわし、他ならぬあの者がマチになるのだ。」とね。「わたし、わしはかつてマチであった。昔地上に住んでおった。ウィリトライはこの地におった。ウィリトゥライはこの共同体におった。それで、のちに去った、他の地に出て行った。死んで天界に行ったのだ。それで今、再びやって来た。ウィリトライは再び降り、再びここにおるようになった。ふたたび己の共同体に鎮座した。かつていた自分の共同体、自分のレドウクシオン(共同体)に、またウィリトライはやって来た、再び参上したのだ。」とな。

それで、今再びウィリトライが存在するってわけだ。天界へ戻って行って、で今またここにいるようになった。今度は自分の孫を、自分の孫の体を使ってな。(中略)

このことは受け継がれて行く。というのは、わしの母が前にそうだったからな、あの人の母がマチだったのさ、わしらの祖母がな。それでその後あの人(オスカルの母)が続いた。あの人もマチになった。それで今度は自分の孫に憑いたってわけだ。自分の孫が今度はマチになったんだ。な。

そういうわけで、で今ではわしらのところにまたもう一人のマチがいるようになった。またわしには母がいるようになったんだよ。というか、わしの母がまたここにいるようになったのさ。今母が、わしの母が戻って来た。またわしの母親がいるようになった、再びわしの母がな。だがわしの本当の母ではなく、道具として使ってたが、他の者をな…。

そういうわけで、わが神様はどんな時にでもここ、人のそばに姿をあらわすことができる、誰のところにでも現れることができるんだ。そうだと。そう。そういうわけなんだよ、ペニ³⁹。

5. 注

1. Sur: 11.
2. 千葉 (a):166-185. 参照。なお、マチの治療を受けたことのある、ルマコ区に在住するある白人系患者の証言としては、千葉 (e) 参照。
3. 人的要因および「修行」を強調したものとしては、ゲバラ (Guevara:240.)、ティティエフ (Titiev: 118-120.)、ファロン (Faron: 140-141.) 等の研究が挙げられる。
4. クーパーやアロンケオらは、この種の要因を重視している。(Cooper: 750, Alonqueo: 155) また近年マプーチェの宗教に関する研究を発表したフォエルステルも、この点についてはアロンケオに依拠して叙述している。(Foerster: 102-103.)
一方ヒルガーは、人的要因にも言及しているものの、超自然的要因(夢を通じての強制)によってマチになるケースの方が多い旨説明している。(Hilger: 133.) また、メトロローはこの点に関して、ヒルガーの説明に依拠している。(Metraux: 185.)

5. 筆者が懇意にしてもらっているトライゲン区の「筆頭マチ」（千葉（d）参照）やヌエバ・インペリアル区ロムルウェ共同体に住むある年輩女性マチはそうように表現している。
6. Cooper : 750. Alonqueo : 156.
7. Alonqueo : 170
8. Hilger : 133, Metraux : 185.
9. Housse : 153.
10. Coña : 331-332.
11. Housse : 159.
12. Hilger : 181. 注 4 も参照。
13. 千葉（b）: 238-239. 同区の別の共同体に住むある女性マチ、また、前述（注 5）したヌエバ・インペリアル区のマチもペリモントウン体験を自らのマチ召命の根拠としている。
14. 千葉（d）。このマチの場合、その召命はヒルガーのケースの一つに近い特徴を示している。
15. オスカルによれば、彼の姑もこれと同様な形でマチに召命されている。
16. Alonqueo : 170. また、フォエルステルの研究も、この点についてはアロンケオの研究に依拠している。（Foerster : 103.）
17. 今日では、マプーチェの共同体が点在する南部諸州に居るマプーチェたちの間でも、キリスト教の普及率は90%を超えている。（Sur : 79-82.）
18. 自らをカトリックと宣言するマチの例としては、千葉（c）: 170-172、千葉（d）参照。
19. 千葉（c）: 166-168.
20. ビジャンの実態とキリスト教の影響によるその変遷については、Latham : 589-610. および Böning 参照。
21. 1948年にチオルチオル地区で調査を行ったティティエフは、当時同地区のマプーチェたちが行っていた「聖フアンの祭礼」に関する記述を残している。（Titiev : 120-121.）
22. この祝祭日の混交的特徴については Foerster : 100-101. 参照。
なお、マプーチェ民族主義の気運が高まる今日、都市へ移住しているマプーチェたちの間では、この日を「新年」、「還年」を意味するマプーチェ語の “we tripantu”, “wiñoltripantu” などの名称で呼び、より積極的な意味での「民族の祝日」として祝う習慣も発生している。
23. 1993年に発布された「先住民法」第4編第1項では先住民文化の公認、尊重および保護が規定されている。（CEPI : 16-17.）
24. 1992年の国勢調査によれば、ラウタロ区総人口12,258人のうち、マプーチェ系住民は実に70.2%を占める。（IML : 4）
25. チリにおけるスイス系移民の歴史については、Bustamante Molina [1984] 参照。
26. 以上、レナート・ハウリ氏の証言。（Hauri [2000].）
27. 近年モンテシーノがスペイン語で出版した証言にも、「ウィリトライ」という名のマチが登場する。（Montecino : 76.）
28. オスカルの亡き母の「本名」はエドゥピーナ・グアハルドである。
29. マチの儀礼に欠かせない片面太鼓。皮にはマプーチェの宇宙観が描かれている。
30. マプーチェ女性の伝統的な上羽織。
31. マプーチェ女性の伝統的な羽織。
32. マプーチェがヨーロッパ系チリ人の女性に対して用いる民族名称。
33. マチに憑く神格（霊）が宿るとされる階段状の木彫り。
34. マプーチェにとって代表的な聖木。スペイン語では「カネーロ canelo」という。レウエの両脇にはフォイエの枝が数本ずつ配される。
35. オスカルの姑も、9年前の9月19日（独立記念祭翌日）の昼間にある霊的存在に憑依され、マチになっている。オスカルはこの前の部分で姑のマチ召命について語っている。
36. 疾病や災害をもたらす「悪霊」を意味するマプーチェ語の名詞。
37. 神格（霊的存在）によってマチに選抜された人物は、正式にマチになるまでの間特有の病的状態に

悩まされる事が多い。この現象は、その人物がマチになることを促す神格の意思と解釈される。これは他地域のシャーマンにも共通する、いわゆる「巫病」である。

38. 本証言の内容からも理解されるように、ある人物がマチとしての職を全うするには、楽器や装束を始めとする様々な道具が必要となり、それは多大な出費を意味する。
39. 本来、マプーチェ語の男性から（男性の）に対して用いる親族名称。転じて、男性同士の間で親しみを込めた呼びかけの言葉としても使われる。

6. 参考資料

(1) 音声資料 (MD録音)

Hauri, Renato, *Testimonio*, Comunidad Antonio Millalén, Comuna de Lautaro, 2000, 21 de agosto de 2000.
Lepilao Guajardo, Óscar, *Testimonio*, Comunidad Blanco Lepin, Comuna de Lautaro, 1 de septiembre de 1999.

(2) 文献資料

- Alonqueo, Martín, *Instituciones religiosas del pueblo mapuche*, Santiago, Ediciones Nueva Universidad, 1979.
Böning, Ewald, *El concepto de pillán entre los mapuches*, Buenos Aires, CAEA, 1995.
Bustamante Molina, Tránsito, *Síntesis del Pionero Suizo en la Frontera*, Victoria, Diario Las Noticias de Victoria, 1984.
- 千葉泉 (a), 『馬に乗ったマプーチェの神々ーチリ先住民文化の変遷ー』、大阪外国語大学学術研究双書19号、1998年、218 p.
- 千葉泉 (b), 「「マチ」の証言：ルマコ区（1）ーエウダリア・ライマンの場合ー」、『大阪外国語大学論集』、第19号、1998年、233-259頁。
- 千葉泉 (c), 「「マチ」の証言：ルマコ区（1）ーエウダリア・ライマンの場合ー<2>」、*Estudios Hispánicos*, No. 23所収、大阪外国語大学スペイン・イスパノアメリカ研究室、1998年、159-178頁。
- 千葉泉 (d), 「「マチ」の証言：トライゲン区（1）ーメレヒルダ・ウェンテラオの場合ー」、『大阪外国語大学論集』、第24号、2001年、1-26頁。
- 千葉泉 (e), 「チリ南部の民間医療に見る異文化接触ーある白人系患者の証言（1）ー」、*Estudios Hispánicos*, No. 25所収、大阪外国語大学スペイン・イスパノアメリカ研究室、2001年、139-154頁。
- Comisión Especial de Pueblos Indígenas, *Ley Indígena*, Santiago, CEPI, 1993.
- Coña, Pascual, *Testimonio de un cacique mapuche*, Santiago, pehuén, 1984.
- Ediciones Sur, *Los mapuches : comunidades y localidades en Chile*, Santiago, INE y Ediciones Sur, 1997.
- Cooper, John M., "The Araucanians", en *Handbook of South American Indians*, Washington, Smithsonian Institution, Vol. 2, pp. 687-760.
- Ester-Greve, María, Fernández, Joaquín y Piedler, Carlos, "Mitos, creencias y concepto de enfermedad en la cultura mapuche, en *Actas Psiquiátrica y Psicológica para América Latina*, XVII, 3, Buenos Aires, 1971, pp. 180-193.
- Faron, *Antüpaiñamko : Moral y Ritual Mapuche*, Santiago, Ediciones Mundo, 1997 (1964).
- Foerster, *Introducción a la religiosidad mapuche*, Santiago, Editorial Universitaria, 1995.
- Guevara, Tomás, *Psicología del pueblo araucano*, Santiago, Imprenta Cervantes, 1908.
- Hilger, M. Inés, *Araucanian child Life and its cultural background*, Washington, Smithsonian Institution, 1957.
- Housse, Rafael Emilio, *Epopeya India*, Santiago, ZIG-ZAG, 1940.
- Ilustre Municipalidad de Lumaco (IML), *Plan de Desarrollo Comunal 2000-2006*, Lumaco, Ilustre Municipalidad de Lumaco, 1999.
- Latcham, Ricardo E., *La organización social y las creencias religiosas de los antiguos araucanos*, Museo de

Etnología y Antropología, Núms. 2, 3 y 4, Santiago, 1924.

Metraux, Alfredo, *Religions et magies indiennes d'Amérique du Sud*, Mayenne, Editions Gallimard, 1967.

Montecino, Sonia, *Sueño con menguante : biografía de una machi*, Santiago, Editorial Sudamericana, 1999.

Sur, *Los mapuches. Comunidades y localidades en Chile*, Instituto Nacional de Estadísticas y Ediciones Sur, 1997. p.11.

Titiev, Mischa, *Araucanian culture in tansition*, Ann Arbor, University of Michigan Press, 1951.

(2001.5.30受理)